

第5回中部歴史まちづくりサミット パネルディスカッション要旨

- コーディネーター： 京都橋大学文学部教授 増淵 徹 氏
- パネリスト： 高山市長 國島 芳明 氏、亀山市長 櫻井 義之 氏、犬山市長 山田 拓郎 氏
恵那市長 小坂 喬峰 氏、美濃市長 武藤 鉄弘 氏、明和町長 中井 幸充 氏
郡上市長 日置 敏明 氏、名古屋市副市長 堀場 和夫 氏
伊賀市長 岡本 栄 氏、岡崎市副市長 清水 康則 氏、三島市長 豊岡 武士 氏
中部地方整備局長 塚原 浩一
- テーマ：①「歴史文化資産の持続的継承について」
②「歴史まちづくり認定都市に求められるインバウンド対応力と回遊性を高める観光の促進について」

●主な意見

テーマ①「歴史文化資産の持続的継承について」

- ・歴史文化資産の持続的継承のポイントは2つ。1つは「人」であり、もう1つは「モノ」。
- ・歴史的風致は、「人の営み」「歴史的資産」「都市全体の環境」を三位一体で繋げることが大事。
- ・住宅密集地での火災対策と、観光客が増えた中での暮らしとの両立が課題。
- ・郡上踊りの保存会の高齢化が進行。若手踊り手の育成が課題。
- ・雅楽の持続的継承に向け、岩村の中学校では総合学習の場で教育を実施している。
- ・歴史や文化遺産は生活の中で生まれ、地域のコミュニティとして受け継がれてきている。持続的継承のためには、いかに生活の中に溶け込ませていくかが重要。
- ・明和町では、小学5、6年生の学習の中に斎宮を学ぶ取組を始めた。地域、伝統に誇りを持ってもらうことで、文化遺産継承の活路を見出していきたい。
- ・歴史文化遺産の持続的継承のためには、地域の歴史・文化・伝統に対し誇りを持てるような手立てが必要。
- ・岡崎市は歴史まちづくりに対し、2つの視点で取り組んでいる。1つは興味を惹く情報発信、もう1つは公民連携で支える仕組みづくり。
- ・三嶋大祭りに欠かすことのできない「しゃぎり」と呼ばれる祭り囃子の継承についても少子高齢化の影響があり、持続するには子供会等のコミュニティの衰退を食い止めることが必要。
- ・地域固有の伝統的な活動は、地域外の人にとっては新鮮で魅力的、価値のあるものに映る。新たなファンの獲得が担い手の確保、歴史的資産の持続的継承に繋がる。

テーマ②「歴史まちづくり認定都市に求められるインバウンド対応力と回遊性を高める観光の促進について」

- ・高山市では、3つの柱でインバウンドに取り組んでいる。1点目は海外対応の窓口を集約し、取組の一本化を図ること。2点目は、外国人目線でバリアをなくし便宜を図ること。バリアで一番大きいものは言語であり、多言語によるHP・パンフレット作成やフリーWi-Fiの整備に取り組んでいる。3点目は、国際基準の視点で景観の創出を図ること。
- ・名古屋の歴史文化を外国の方に如何に分かりやすく伝えるかが課題。一番大事なことは、市民におもてなしの心を持ってもらうこと。
- ・伊賀市を訪れる外国人旅行客は5年前の約5倍。一方、公共トイレの洋式化、Wi-Fi環境の整備、多言語標識などの基本的な社会インフラが整っておらず、鋭意整備に取り組んでいる。
- ・フリーWi-Fiスポット、パンフレット、HP、アプリ、案内板等の多言語化等を順次進め、受入環境は徐々に整ってきた。一方、岡崎市内の歴史文化の魅力が十分に伝わっておらず、今後は、歴史的資産を点ではなく線や面となるようストーリーで繋ぎ、PRしていきたい。
- ・回遊性向上の取組は、観光面のメリットだけでなく、地域全体の愛着、誇り、生活の質の向上に直結する。
- ・恵那市では、中山道17の宿場を繋ぐ取組のほか、東濃5市で観光DMOに取り組んでいる。
- ・犬山市における回遊性の向上、観光の持続性のポイントは2つ。1つは、集客よりも創客。もう1つは地域資源のネットワーク化。

- ・インバウンドは、旅行コースやニーズ等が変化している。従来は京都、奈良、大阪、東京だったが、今後は歴史的資産を持っている地域が強みを活かしていけるのではないか。
- ・回遊性が高まると、人の関心や興味は多様化する。外国人を含めると更に対象が幅広くなる。今後は、求められている情報を的確に出していくことが大切。
- ・案内サインやパンフレットの多言語化、ボランティアガイドの育成、スマホサイトの開設等に取り組んでおり、これにより三島市域全体の回遊性の向上を目指している。

【以 上】